

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

## Vol. 25 Gerry Mulligan【ジェリー・マリガン】 ～バリトン・サクソ奏者の第一人者～

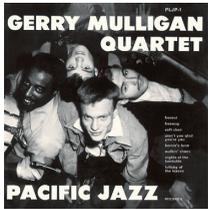


(left to right) Bill Crow, Gerry Mulligan and Bob Brookmeyer  
Photo provided by Bill Crow

### Profile

1927年4月6日、米国ニューヨーク州ニューヨーク市クイーンズ区生まれ。本名はGerald Joseph Mulligan。7歳からピアノを弾き始め、その後クラリネットを手にする。10代の頃から曲を書き始め、サム・コレッティにサクソスを教わる。父親の仕事の関係でフィラデルフィアに移り、17歳の頃にはラジオ・バンドのアレンジを担当。46年に故郷のニューヨークに戻り、19歳の頃からジーン・クルーパーやクロード・ソーンヒルのグループのアレンジを手掛ける。49年にマイルス・デイヴィス(tp)の9重奏団の参加し、後に名盤『クールの誕生』が生まれた。52年にウエスト・コースト(西海岸)に移り、チェット・ベイカー等とピアノレス・カルテットを結成。このバンドの活動期間は1年間だったが、ウエスト・コーストを中心に絶大な人気を誇る。その後も自身のカルテットを結成するなど、クールなウエスト・コースト・ジャズのリーダー格としてシーンを牽引していく。60年にコンサート・ジャズ・バンドと名乗るビッグ・バンドを結成。63年にはアート・ファーマー等をメンバーに迎えて、代表作のひとつである『ナイト・ライツ』を発表。68年から72年までデュー・ブルーベックとの双頭コンビで活動。78年に「ニューポート・ジャズ・フェスティバル」でコンサート・ジャズ・バンドを再結成し、全米ツアーを行う。1980年代に入るとフュージョン色の強いサウンドで新たな一面も見せた。81年の「オーレックス・ジャズ・フェスティバル」と93年にも来日公演を行う。ジャズ・シーンにおけるバリトン・サクソ奏者の第一人者として晩年まで精力的にライブ活動を続けた。1996年1月20日、ランニングで痛めた膝の手術の外傷が元でコネチカット州ダリエンの自宅で死去。享年68歳。

## ウエスト・コースト・ジャズを確立したといえる名盤！

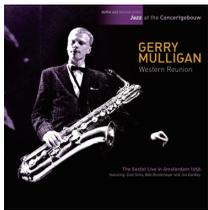


### オリジナル・ジェリー・マリガン・カルテット ジェリー・マリガン (EMI ミュージック: TOCJ-50036)

ジェリー・マリガン (bs)、チェット・ベイカー (tp)、ジョー・モンドラゴン、ボブ・ホイットロック、カーソン・スミス (b)、チコ・ハミルトン、ラリー・バンカー (ds)

1. バーニーズ・チューン
2. ウォーキン・シューズ
3. ナイツ・アット・ザ・ターナーテーブル
4. 木の葉の子守唄
5. フレネシー
6. フリーウェイ
7. ソフト・シュ
8. アート・ユウ・グラッド・ユア・ユウ・ラ
9. アイ・メイ・ビー・ロング
10. アイ・ビギニング・トゥ・シー・ザ・ライト (他、全 18 曲)

## ジェリー・マリガン絶頂期の貴重なライブ音源！

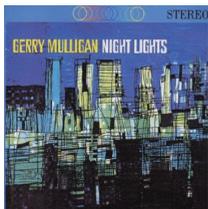


### セクステット・ライヴ・イン・アムステルダム 1956 ジェリー・マリガン (55 Records: FNCJ-5608)

ジェリー・マリガン (bs, p)、ジョー・アードリー (tp)、ボブ・ブルックマイヤー (tb)、ズート・シムズ (ts)、ビル・クロウ (b)、デイヴ・ペイリー (ds)

1. イントロダクション
2. バイ・ジェリー・マリガン
3. マッド・パグ
4. ナイツ・アット・ザ・ターナーテーブル / オンテット
4. エイント・イット・ザ・トルース
5. ライン・フォー・ライオンズ
6. ディアンサ / アッター・カオス
7. プロードウェイ
8. スウィート・アンド・ラヴリー (他、全 15 曲)

## ジェリー・マリガンのピアノも味わえる代表作のひとつ



### ナイト・ライツ ジェリー・マリガン (ユニバーサル・ミュージック: UCCU-9865)

ジェリー・マリガン (bs, cl, p)、アート・ファーマー (tp)、ボブ・ブルックマイヤー (tb)、ジム・ホール (g)、ビル・クロウ (b)、デイヴ・ペイリー (ds)

1. ナイト・ライツ (1963 ヴァージョン)
2. カニヴァルの朝
3. ウィー・スモール・アワーズ
4. プレリユード: ホ短調
5. フェスティヴァル・マイナー
6. テル・ミー・ホエン
7. ナイト・ライツ (1965 ヴァージョン)

## 映画『私は死にたくない!』

原題は「I Want to Live!」。1958年に製作・公開されたロバート・ワイズ監督のアメリカ映画で、スーザン・ヘイワードが主演し、実在の死刑囚バーバラ・グレアム役を演じた映画（この作品でスーザン・ヘイワードはアカデミー主演女優賞を受賞）だが、音楽はジョニー・マンデルが担当し、ジェリー・マリガンが自慢のバリトン・サクスの演奏で演奏している。映画のオープニングでもジェリー・マリガンの演奏をバックにクレジットが流れ、ミュージシャンとしてジェリー・マリガンの姿も登場する。映画のDVDは勿論、サウンド・トラック盤もリリースされているので機会があればぜひ見てもらいたい。その他、ジェリー・マリガンの演奏シーンが見られる映像としては、『私は死にたくない!』公開と同じ1958年に開催された「第5回ニューポート・ジャズ・フェスティバル」を記録したドキュメンタリー映画『真夏の夜のジャズ』(1960年公開)もお薦め！

「Pacific Jazz Records」からリリースされた2枚の10インチ盤「PJLP1」「PJLP5」を中心に収められたオリジナル・ジェリー・マリガン・カルテットの初期、1952年の音源。全18曲収録で、ウエスト・コーストで絶大な人気を誇ったチェット・ベイカー (tp) との絶妙なコンビネーションが最高のピアノレス・カルテットによる一枚。東海岸のジャズとは異なるウエスト・コースト・ジャズの独特の雰囲気もこの作品を聴けば分かるだろう。4人のメンバー (ジェリー・マリガン、チェット・ベイカー、チコ・ハミルトン、ボブ・ホイットロック) が上を見上げるジャケッとも当時としては斬新で、クールなウエスト・コースト・ジャズらしさが漂う。このカルテットの成功がウエスト・コースト・ジャズを隆盛させた。

1956年4月7日アムステルダム音楽殿堂コンサートへボウで録音されたジェリー・マリガンがオールスター・セクステットを率いて行われたコンサートの模様を収録した貴重な音源。ズート・シムズ (ts)、ボブ・ブルックマイヤー (tb) に、ベースは『さよならバードランド』『ジャズ・アネクターズ』の著者としても知られるビル・クロウ。1956年といえば、ウエスト・コースト・ジャズが最も輝いていた頃で、絶頂期でもあったジェリー・マリガンのプレイも感動的！全15曲、本当に貴重なライブ音源だ。尚、同じくアムステルダム音楽殿堂コンサートへボウで録音されたサラ・ヴォーン、チェット・ベイカー、J.J. ジョンソンの歴史的音源も当アルバム同様に『55 Records』より発売中です！

アート・ファーマー (tp)、ボブ・ブルックマイヤー (tb) にジム・ホール (g) 等が参加した1963年録音の作品。オープニングの「ナイト・ライツ (1963 ヴァージョン)」ではジェリーがピアノを披露し、ラストの「ナイト・ライツ (1965年ヴァージョン)」でもジェリーがバリトン・サクスのではなくクラリネットを吹いている等異なる面もあるが、ジェリー・マリガンの代表作のひとつとして人気が高い名盤。勿論、他のナンバーでは自慢のバリトン・サクスの厚みのある音色も味わえる。ボサノヴァ・ナンバーの「カニヴァルの朝」やショパンのクラシック・ナンバー「プレリュード: ホ短調」等、サウンドもムード満点で静かな夜に聴くには最高の一枚。都会の夜景を描いたジャケッ写真も素敵だ。

## ジェリー・マリガンについて

ジェリーに触れた文獻としては、ジェリーのグループでレギュラー・ベーシストとして活躍したビル・クロウ著 (村上春樹翻訳) 『さよならバードランドーあるジャズ・ミュージシャンの回想』(新潮文庫) がお薦め。ジャズにおける貴重な記録でもあります。

## ジェリーの名がドラマ『相棒』に?!

2009年10月21日に放送された水谷豊主演の人気刑事ドラマ『相棒』のSeason 8～第2話「さよなら、バードランド」で、水谷豊扮する杉下右京がジェリー・マリガンのピアノレス・コンボについて語るシーンが登場する。水谷豊が個人的にジェリーのファンなのか、第2話の脚本家 (太田愛氏) の独断によるものか、ジェリーの名が登場した経緯は定かではないが、ジャズ・ファン&ジェリー・ファンにとっては嬉しい限りだ。